

# 「南海トラフ地震・津波をはじめとした地震・津波防災に資する調査観測、研究等についての包括的連携協力に関する協定」の締結について

国立研究開発法人防災科学技術研究所（防災科研）と国立研究開発法人海洋研究開発機構（海洋機構）は、2020年10月8日、「南海トラフ地震・津波をはじめとした地震・津波防災に資する調査観測、研究等についての包括的連携協力に関する協定」を締結しました。

これまで両機関は、2016年4月に海洋機構が紀伊半島沖を中心に整備した地震・津波観測監視システム（DONET）を海洋機構から防災科研へ移管した後、共同で本システムの維持・運用を行う等、協力体制を構築してきました。

海洋機構はDONETをはじめとした海域の地震津波観測システムの開発・運用に関する海洋科学技術、防災科研は陸海統合地震津波火山観測網（MOWLAS）の構築・運用により、データを広く公開・共有する研究基盤と予測から復旧・復興に至るまでを対象とした防災に関する総合的かつ幅広い研究力をそれぞれ有するという強みがあります。

今般、南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）の整備開始を機に、防災科研と海洋機構は本協定に基づき、両機関の強みを活かして連携を強化することとしました（図）。

本協定の下に、「防災科研・海洋機構連携推進協議会」を設置し、2020年10月15日に第1回会議を開催しました。具体的な協力事項の検討を進めてきています。

本協定の締結を契機に、我が国における地震・津波観測網の統合的な研究開発と成果の利活用、そして社会実装を両機関が協力・連携して実施することで、我が国の地震・津波へのレジリエンスの向上に向けた取組の強化を図ってまいります。

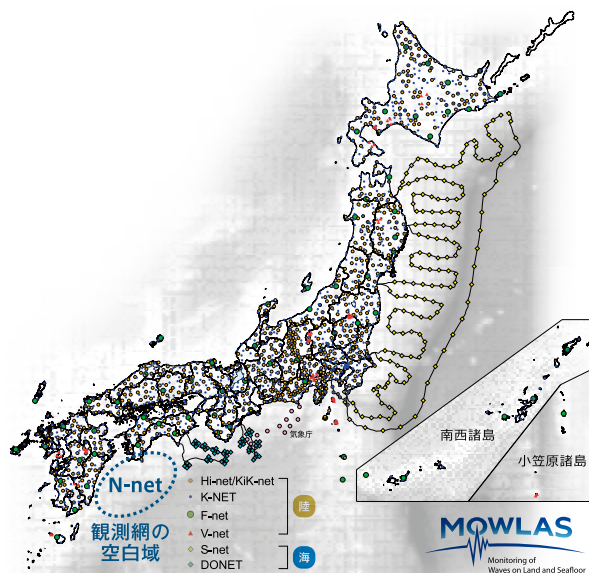
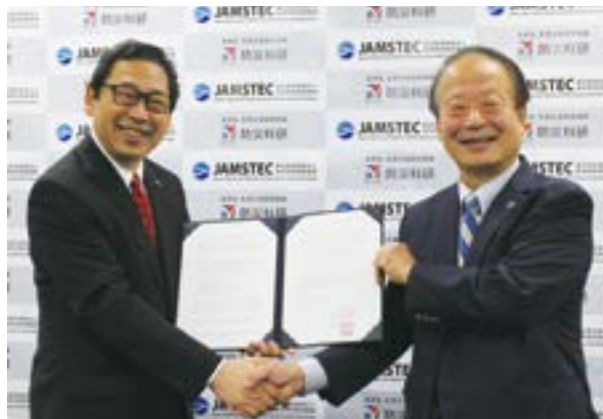


図 全国を網羅する地震・津波・火山の観測網MOWLAS



協定書と海洋機構の松永理事長（右）、防災科研の林理事長（左）



第1回防災科研・海洋機構連携推進協議会の様子

## デ活シンポジウムをオンラインで開催中



～首都圏レジリエンスプロジェクト・データ利活用協議会（デ活）は、データ利活用協議会  
COVID-19 禍でもデータ利活用に継続して取り組んでいます～

首都圏レジリエンス研究推進センターでは、首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト (for R) の一環として設置した産学官民からなるデータ利活用協議会 (デ活) が、首都圏・日本のレジリエンス強化に向けて取り組むべき課題等を議論するデ活シンポジウムを毎年4回開催してきており、令和2年度は、これまで3回、オンラインで開催してきました。

今回は、2021年3月頃を予定しております。  
ご視聴をお待ちしております。

<データ利活用協議会webサイト>

<https://forr.bosai.go.jp/duc/>

※デ活シンポジウム開催案内はこちらに掲載されます。



デ活シンポジウムの様子

### ■令和2年度 第3回デ活シンポジウム

#### 大規模集客施設における防災力の向上を考える

2020年12月18日(金)

平時より多くの人々が利用・滞在し、複数の組織によって協働で運営されることが多く、危機事案発生時には防災拠点施設等として期待される「大規模集客施設」をテーマに議論しました。

### ■令和2年度 第2回デ活シンポジウム

#### 今、改めて首都直下地震と向き合う～観測データを相互利活用するための課題～

2020年10月5日(月)

科学的根拠に基づく意思決定のために、観測データを相互利活用するための課題とその対策について議論しました。

### ■令和2年度 第1回デ活シンポジウム

#### COVID-19 禍での事業継続体制における「データ利活用の意義」とは何か

2020年7月21日(火)

COVID-19 禍での事業継続体制の維持に制約がある中、社会経済活動の中核となる首都圏を中心とした災害リスクを改めて捉え直し、データ利活用が果たす意義・役割を検討しました。

過去のシンポジウムの様子は、YouTubeチャンネルからオンデマンドで視聴ができます。

<https://www.youtube.com/c/DEKATSU>

## 水害に耐える“浮く家”の実物大建物浸水実験を実施

10月13日に大型降雨実験施設において、(株)一条工務店と共同で、水位3mに耐える実物大の耐水害住宅の浸水実験を行いました。

本実験は令和元年から開始した官民共同の「水害軽減プロジェクト」の一環で、昨年の実験では水位約1.3mで建物が浮き上がることを確認しました。今年は水密性と浮力対策技術の開発を加え、実物大の一般仕様と耐水害仕様の2棟を水位3mの水害状況を作り出して比較実験を実施しました。

当日は実験施設内に設置した大型貯水槽に約1時間半かけて注水し、強風や強い水流も再現しました。一般仕様の住宅が床上浸水や漏電が起きる一方、耐水害住宅は、水位1.4mで浮上を始めたものの強化ガラスや排水管の逆流防止弁などで浸水を防護し、排水後も係留装置により元の位置に戻りました。

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、「在宅避難」という選択肢が注目されていますが、本実験は、災害に耐える住宅の検証という点でも意義のあるものでした。



なお、本取組により、防災科研と(株)一条工務店は、環境省が主催する令和2年度気候変動アクション環境大臣表彰の初代受賞者に選定されました。



令和2年度  
気候変動アクション  
環境大臣表彰

2021  
2/10  
水曜日

令和2年度 テーマ「来るべき国難級災害に備えて2021」

# 成果発表会

参加無料

今年度はオンラインでも配信いたします。

【開演】12:30～16:00

【会場】オンライン配信／東京国際フォーラム ホールD5

少人数ではございますが、会場参加者も募集しております。(抽選)

<https://www.bosai.go.jp/info/event/2020/seika/index.html>

特別ゲストコメンテーター

池上 彰



## 研究者による成果発表動画を公開中

令和2年度成果発表会では、新しいスタイルの成果発表の方法として、防災科研の研究者一人ひとりによる動画での研究成果の発表を行うことといたしました。対象は本年度の研究活動を含む研究になります。皆様からの高評価数でベスト10を選出、発表会当日、会場およびWebでのオンライン配信において結果を発表いたします。上位の研究者については、当日登壇の予定です。

<https://www.bosai.go.jp/info/event/2020/seika/kenkyudoga/index.html>



## 防災科研ニュース

2020 No.211

2020年12月31日発行

●ご意見・ご感想をお寄せください e-mail: [k-news@bosai.go.jp](mailto:k-news@bosai.go.jp)

■発行



国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1 企画部 広報・ブランディング推進課  
防災科研ニュース係 TEL.029-863-7768 FAX.029-863-7699

●防災科研ニュースはウェブサイトでもご覧いただけます (<https://www.bosai.go.jp/>)